

課題研究企画

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1442104 増田 準

現代において、Web サイトは見るものから使うものへと形を変えている。「言語や配信の仕組みに変わりはありませんが、広い意味での「Web デザイン」という行為は、その時々に合わせて変化し続けています。[1]」とあるように、時代にあった Web デザインが求められている。また、「ネット界は多並行分散型のネットワークになっているので、より多様化を進める方向でウェブという市場は推移する [2]」とあるように、流行の変化に適應することがウェブ運営にとっても重要だと考える。視覚的な良し悪しだけでなく、使いやすさを追求することもデザインの一環であるといえる。例えば、スマートフォンなどタブレット端末が生活に根付いた昨今では、ユーザーは縦スクロールの機会が増え、それにあった Web デザインの重要性も高まっている。では、現代におけるユーザー好むデザインとはどのようなものなのか。

この研究では、Web デザインの違いによってユーザーからの支持がどう変わるのか、その違いを明らかにしたい。海外デザインブログ Designmodo で 2016 年 1 月 4 日に公開された「11 Web Design Trends for 2016[3]」という記事がある。2016 年の Web デザインのトレンドとなるパターンを 11 個紹介したものだ。例を挙げると、情報整理がしやすくデバイスを問わず動作が可能な「カード型のデザイン」。ユーザーが直感的に移動させることができ、スクロール、クリック、時間経過にも対応した「フルスクリーンスライド」。更には、ヘッダーに映画のような高解像度の動画を用いた「ヒーロービデオヘッダー」では、「Web デザインは映画製作のようになるだろう」とも言われている。Designmodo では例年、Web デザインのトレンドが紹介され、注目度が高まっている。この研究では 2016 年現在、この記事に紹介されたパターンが、過去のデザインのトレンドパターンを用いた Web サイトよりもユーザーに好まれるかを検証する。

この研究はアクセス数の統計とその比較によって行われる。まず、同じ内容のサイトを複数立ち上げる。2016 年のトレンドパターンを用いたもの、そして比較対象として 2015 年と 2014 年のトレンド

パターンを用いたものだ。各年には複数のトレンドパターンが存在するため、ジャンルが近いものを比較対象とする。例えば、ジャンルを「配色」とするならば、2016 年は派手でカラフル (80 年代を連想させる) な配色、2015 年は単色でアクセントが強調される配色、そして 2014 年はシンプルで清潔な配色と紹介されており、比較対象となりえる。それぞれを同日に公開し、期間を決めてアクセス数を解析し、グラフなどにまとめてどのデザインがユーザーに好まれるかを検証する。また、ジャンルを変えたパターンでも同様の検証をし、データの確実性を高める。「データマイニングを利用してヒットの要因を把握する技術は、プロジェクトの新規性を見出す方法のひとつとなる。[4]」とあるように、この研究には PM との関係性もある。

この研究の問題点は、Web サイト制作の技術面の不安である。Designmodo が紹介したデザインパターンを再現できるかという点だ。もう一つは、紹介されたデザインの再現率にばらつきがある場合である。ばらつきがあると、デザイン性の違いだけでの比較といえず、データの信頼性に問題があるといえる。よってこの研究をするうえで最も必要なことは、プログラミングの技術を高めることのほか、画像編集や映像編集などの技術の取得であると考えられる。

参考文献

- [1] 西垣通. ユーザーが作る知の形, 角川インターネット講座, 第 6 巻. 角川学芸出版, 2014 年.
- [2] こもりまさあき・赤間公太郎. Web デザインの新しい教科書, 改訂新版. エムディエヌコーポレーション, 2016 年.
- [3] Designmodo. 11 web design trends for 2016. <http://designmodo.com/web-design-trends-2016/> (2016.06.29 閲覧).
- [4] 松本耕太. 玩具開発プロジェクトのためのデータマイニング手法. 課題研究, 2013 年.